

目次	1	変わりゆくGraSPP [那知信恵]
	2	世界で活躍するGraSPP 修了生(シンガポール編) [指田和美 + Kellie Tan + Jie Li + 田中孝直(モデレーター)]
	3	留学生インタビュー [Cory Bairdさん]
	4	修了生からのメッセージ [Moe Thida + Rully Prassetya + Yoav Hilman] / トピックス

変わりゆくGraSPP

那知信恵 学術支援専門職員

最近、"GraSPPers"という表現を耳にするようになりました。GraSPPの学生や修了生、特に留学生や留学経験を持つ日本人学生が、愛情込めてそう称しているようです。その言葉に、彼らがGraSPPと心理的につながってくれる響きを感じて、なんとなく嬉しくなります。2016年3月でGraSPPも11期生が修了します。2010年にできたMPP/IP(「国際プログラム」)も昨年9月に4期生が巣立っていきました。創立以来、交換留学やダブル・ディグリーの学生交流プログラム、MPP/IPやキャンパスアジアといった国際関係のプログラムの立ち上げに関わった者として、ここ4、5年のGraSPPの変化には目を見張るものがあります。東大の中で一番歴史の浅い大学院である公共政策大学院は、いまや学内で最も国際化が進んだ大学院と言われるようになりました。

数字で見てみると、東京大学が発行している『東京大学の概要』2015年度版の「学生数」という項目で、2015年5月時点での大学院に在籍する学生数と外国人留学生(ビザの種類が「留学生」の学生)の数がわかります。そこから在籍学生数に占める外国人留学生の割合を計算してみると、公共政策大学院が35.6%(96人/269人)で堂々の1位、その次が学際情報の29%(112人/385人)、そして経済学(95人/339人)と工学系(929人/3293人)がともに28%となっています。5年前の数字を見てみましょう。2010年5月時点で、公共政策は3.7%(9人/241人)で最下位でした。ちなみに当時の1位は工学系(779人/3140人)と学際情報(90人/362人)の24.8%でした。この5年間で工学系が24.8%



から28%へ緩やかに外国人学生数を上げているのに対し、公共政策は3.7%から35.6%と、いかに急激な変化をたどってきたかがわかります。

これには歴代院長を始めとしたGraSPPなりの生き残りをかけたロジックがありました。「公共政策」というからには、「by definition」で国際的視野を持たなければならない。これから世界で生き残ってトップクラスの公共政策系大学院と肩を並べるためには、公共政策系大学院のネットワークの中で認知されることが重要、ネットワーク(GPPN)に入るためにはダブル・ディグリーの実施が必須、ダブル・ディグリーのためには英語で行う科目の拡充が必須、それなら英語だけで学位がとれるプログラムや、良質な留学生を確保するために奨学金付きのプログラムも設けよう……そうしてダブル・ディグリーが導入され、MPP/IPやキャンパスアジアといった英語のプログラムが始まりました。それらが起爆剤となって、留学の派遣・受入や在籍留学生の数が一気に増えたのです。

今や常時100人以上の留学生を抱え、廊下で飛び交う多言語が当たり前になり、3分の1は英語による科目、職員も英語で対応できる体制が整ってきたとはいえ、国際化の本当の中身が問われるのはこれからです。かたちだけでなく、中身が国際スタンダードについていけるようになるまでには、まだまだ、道のりは長そうです。



世界で活躍する GraSPP 修了生 シンガポール編



指田和美 (Kazumi)

2009年修了。在学中にコロンビア大学国際公共政策大学院に交換留学。みずほ銀行でシンジケートローンやプロジェクトファイナンスに携わり、現在はVISA勤務。

Kellie Tan

シンガポール出身。2015年修了。在学中にパリ政治学院に交換留学。現在、シンガポール交通省勤務。

Jie Li

中国出身。シンガポール国立大学リー・クアンユー公共政策大学院とのダブルディグリー生として2013年修了。現在、同大学院でアジア域内の国際関係を研究中。

モデレーター 田中孝直

経済政策コース2年、2015年9月よりダブル・ディグリー生としてリー・クアンユー公共政策大学院に在学中。

— GraSPP で学んだ経験は現在の仕事に活かされていますか？

Kellie : GraSPPでは、専門知識を身につけるだけでなく、多様なバックグラウンドの人たちと交流し、日本語を学び、様々な経験をしました。どれも貴重な経験でしたので、挑戦して良かったと思います。職場で難しい仕事を任されると、GraSPPでの日々を振り返りつつ、自分が置かれた環境を最大限活かして成長するよう心がけています。

Kazumi : 私も、挑戦することが大切だと思います。コロンビア大学では、周囲がミッドキャリア(30代で社会人経験がある層)の学生ばかりなので圧倒されましたが、ある時を境に、失敗を恐れず、自分の意見を述べ、学べるだけ学ばなければと心に決めました。厳しい環境でしたが素晴らしい経験となりました。

Jie : 先生方やクラスメートと議論を重ねることで深く考える力が身につきました。これは今の仕事にも役立っています。また日本で出会った人たちはとても親切で助けられました。



— シンガポールでの生活と今後のキャリアビジョンについて教えてください。

Jie : 実務家か研究者か、いろいろ考え、大学で研究する途を選びました。シンガポールでの生活は、ワークライフバランスに恵まれ、国際的な環境なので外国人には馴染みやすいですね。専門分野は変わるかもしれませんが、研究を続けるつもりです。

Kazumi : シンガポールで働いていると、成長のスピードが速いと感じます。異なるバックグラウンドの人たちから信頼を勝ち得るのは簡単ではありませんが、それゆえに学ぶことも多いです。国際的な環境で仕事を続け、将来は人々の生活を良くする公共的な仕事にも関わりたいと考えています。

Kellie : 働き始めてまだ2か月ですが、日々成長していると実感します。私はバス関連政策を担当しているのですが、とても忙しい毎日です。今日のディナーに参加できないのも実は仕事のためなんです(泣)。



— 後輩へのメッセージはありますか？

Kazumi, Kellie : チャンスを最大限活かすこと。果敢に挑戦すれば、必ず将来の財産になります。

Kellie, Jie : 多様なバックグラウンドの人たちと交流すること。留学生は日本語を学ぶことで、日本での出会いや発見の機会が広がります。

モデレーターという務めを終えて

グローバルに活躍される先輩のお話は、日本文化や四季の思い出、外国人には理解しにくかった部分、女性にとっての働きやすさ、GraSPPの将来像など、多岐にわたりました。最も印象的だったのは、「チャンスを最大限活かす」というメッセージでした(田中)。



— 出身と日本が大好きになったいきさつを教えてください。

ミネソタ州の州都ミネアポリス出身です。コーンベルトで、大豆、トウモロコシ、ワイルドライスの産地です。大学は小ぢんまりしたセント・トーマスという私立大学で、専攻は政治学でした。ミネソタは冬は寒くて、マイナス20℃になることも。ミネソタの一番の名物は「冬の寒さ」です！

お父さんがアメリカ人、お母さんが日本人というハイスクールの同級生と仲良くしていました。彼の家で和食をご馳走になって、日本の話をよく聞かせてもらって、日本のことが大好きになりました。初めて日本を訪れたのは2008年、18歳のときに卒業旅行で、その友人と東京、京都、富士山、広島を観光し、最後に彼のお母さんの実家がある下関に行きました。

大学2年のときに上智大学に4ヶ月間短期留学しました。そのときは、自由ヶ丘の一般家庭にホームステイしました。お母さんが関西人で、ノリがよくて楽しい家庭でした。せっかく日本に戻ってきたのに、タイミングがなくて、まだ挨拶に行っていません。まずは手紙を出して、返事があつたら会いに行こうと思っています。



短い間ながらお世話になったワシントンの日本大使館

留学生 International Student Interview

インタビュー

第7回

Cory Baird さん
MPP/IP 1年 (アメリカ出身)

— 東京の暮らしや東大生活はどうか？

東京は初めて旅行で訪れてからずっと大好きです。そんな憧れの街に、この(2015年)9月から住めることになって幸せです。みんな気づいていないかもしれないけれど、東京って意外と大きいんですよ。エネルギーにあふれていて、それでいて移動もスムーズにできて。最初のうちは慣れなくて大変だろうから、とにかく近いところにと、今は根津のシェアハウスに住んでいますが、来学期からは上智大学に留学しているときに知り合った日本人の学生2人と西日暮里近辺に引っ越し予定です。片方の友人は社会人で、駅近が絶対条件です。3人でお金を出し合えば、けっこう広いところに住めます。

GraSPPには2度目の受験で合格しました。GraSPPに来たくて来たくてしかたがなかったのが、嬉しかったです。アメリカの大学院に行こうとは思いませんでした。アメリカ人がアメリカの大学院に行ってもしかたないと思っただし、学費も高くて。外国の大学院に行ったら、勉強以外にも得るものが大きいと思っていました。GraSPPのプログラムは僕がやりたいことばかり揃っていて、最高でした。2度目の受験時は、ワシントンの日本大使館の現地職員として働いていました。結局、大使館には9ヶ月ほど勤務しました。大使館の上司には「えっ、東大に行くの?!」とびっくりされました。

気がつけば、日本以外の国に行っても、いつも日本に戻ってきています。この冬休みは、ミネソタに帰るとお金もかかるので、JETプログラムで外国語指導助手として2年半ほど滞在していた沖縄県伊江島に「里帰り」する予定です。とにかく日本に帰りたくて、上智大学の留学経験をひっさげてJETプログラムに応募しました。東京配属になるとばかり思っていたので、配属場所を最初に聞いたときには、グーグルマップで場所を調べて、超びっくりしました(笑)。でも、伊江島に行けてほんとによかった。宝くじで大当たりした感じです。すっかり仲良くなった地元の人と再会するのが、今から楽しみでしかたありません。そのあとは、3月くらいまで東南アジアを旅しようと思っています。往復3万円くらいのLCCの往復航空券を予約しました。細かくスケジュールを決めているわけではないので、行き先を絞って、ゆるゆるのんびりしようと思います。

(インタビュー・文責 編集担当)



GraSPPの仲間と感謝祭の食事の準備

修了生からのメッセージ

message from
international grasppers



Moe Thida

Deputy Director, Public Relations Section
Department of Urban and Housing Development, Myanmar

It has already been three years since I graduated from GraSPP, but it feels like it has been only three days! Until I enrolled in MPP/IP at GraSPP in 2010, I had been a junior officer naïve to sophisticated policy issues around the world with limited experience in effective negotiation. Back in the government sector after graduation, I have been taking part in policy formulation and transformation processes in Myanmar. It is necessary for me to use a holistic approach in

analyzing daily challenges and convincing arguments to lead my peers in different government departments. I am also expected to be a resource person for my institution to make the best use of my knowledge in working with international organizations. With my improved analytical skill in public policy, I won the Humphrey Fellowship Award to study at Massachusetts Institute of Technology in the U.S. In fact, in my daily work, I use my knowledge and classroom practices gained from MPP/IP. The best memories from my school life at GraSPP remain deeply in my mind and heart. Friendly and modest faculty members with superb academic skills and field exposure offered me the lens to see and the arms to reach the real world.



Rully Prassetya

Research Economist, Indonesia's Resident Representative Office
International Monetary Fund

I am Rully, currently serving as a Research Economist at the IMF Resident Representative Office in Indonesia. My daily work revolves around surveillance of the Indonesian economy as well as research on real sector issues, for instance, growth, trade, inflation, and balance of payments among others. I am grateful for the activities that I am currently doing as I gain many learning opportunities and get exposed to the most pressing issues facing Indonesia. Among

my favorite activities at the office are listening to many visitors sharing their thought on the economy as well as helping the annual Article IV Mission Team. I would like to take this opportunity to thank all the GraSPP communities. During my studies at GraSPP, I was exposed to many concepts by taking various courses on monetary policy, politics of world trade, Asian economic integration, PPPs, and governance, all of which are relevant to my current job. In fact, I still consult my lecture notes regularly at work. I think young professionals who would like to have the combination of internationally minded professors and opportunities to study economic development and structural issues should go to GraSPP. Lastly, I would like to thank all the professors and staff at GraSPP who have made my school life incredibly worthwhile.



Yoav Hilman

Oriental Consultants Global Co., Ltd.

I joined Oriental Consultants Global on May 2012 during my last semester at GraSPP, dividing my time between my academic assignments under the MPP/IP Program and part-time employment at the company. Upon graduation I started full-time employment as part of the relatively new (and rather small) legal department.

Oriental Consultants Global is a Japanese International Development and Engineering Consulting firm currently involved in over 150 ongoing projects worldwide. The Tokyo headquarters oversees the international activity and manages 5 overseas subsidiaries as well as dozens of branches or representative offices around the globe. Therefore, based at the company headquarters,

my work includes wide aspects derived of the international nature of the company, including in-house legal counsel, reviews of legal documents and legislation, risk evaluation, crisis management, compliance, and general dealings with public officials in project countries worldwide.

Throughout my work I am exposed to many legal aspects of international ODA projects and infrastructure construction works. Focusing on legal issues might not be very glamorous (it is mostly not) but my day-to-day work also involves economical and operational features as well as diverse experience in large scale project management.

Also, although based in Japan, my work often requires overseas traveling providing practical experience in developing African and Asian countries. For example, throughout the last year I was assigned to a few infrastructure projects in Myanmar and spent a total of 5 month intermittently in Naypyitaw and Yangon.



"GraSPPers"は神出鬼没です。2015年11月にAPEC Voices of the Future (APECと同時開催されたユースサミット)でフィリピン・マニラに現れたかと思えば、翌12月にはGPPN年次総会でブラジル・サンパウロに登場しました。マニラでは長谷川浩一先生(現アジア開発銀行日本代表理事)、サンパウロでは伊藤隆敏先生(前GraSPP院長、現コロンビア大学教授)と、かつてお世話になった先生方にも再会できました。GlobetrotterとしてのGraSPPersの面目躍如です。



今回のインタビューで何より嬉しかったのが、Coryさんが「日本に帰る」、「日本に戻る」という表現を繰り返し使ってくれたことです。「帰る」、「戻る」というのは日本をホームグラウンドとして考えているからこそ出てくる言葉。日本が、東京が、東大が、GraSPPが大好きというCoryさんのような人が増えるよう、「小さいことからコツコツ」と決意を新たにしたい次第です。(編集担当)

NEWSLETTER [編集・発行] 東京大学公共政策大学院
第43号 GRADUATE SCHOOL OF PUBLIC POLICY
THE UNIVERSITY OF TOKYO

[発行日] 2016年2月2日
[デザイン] 安孫子正浩(水蒸気図案室)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel 03-5841-1710 fax 03-5841-7877
E-mail grasppn1@pp.u-tokyo.ac.jp <http://www.pp.u-tokyo.ac.jp>